

報告文献別一覧表(2006/4/1~2006/8/31)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関連していたことが明らかになった。
2	A型肝炎	ProMED20060408-0040	オークランド地区公衆衛生局(ARPHS)とニュージーランド保健省は、オークランド地区のA型肝炎集団発生の調査中であり、2006年1月15日から4月7日までの間に29人の患者を確認した。患者には、潜伏期間内のトンガ(13人)とサモア(9人)への渡航歴もしくは最近海外旅行から帰国した人との濃厚な接触が共通項として認められた。
3	B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
4	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
5	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
6	C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
7	C型肝炎	J Hosp Infect 2006; 63: 65-69	使用に衛生的な問題があった毛細血管血糖測定器(Roche Diagnostics社製 Glucotrend)を介して、HCV感染者から非感染者への伝播が発生した。同病院ではこの測定器を購入して以来、抗HCV抗体陽性の糖尿病患者20名が入院しており、装置を使用した患者についてレトロスペクティブな調査を行った。検査を受けた995例中19例が抗HCV陽性であった。これは通常のフランス人における感染率よりも高かった。
8	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたと考えられた。
9	C型肝炎	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	汚染された血液を介してC型肝炎に患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。C型肝炎が重篤な結果をもたらすことは1989年に明らかとなり、1991年には信頼できる試験法が開発された。血液製剤の自給ができていたとしても、C型肝炎の感染から血友病患者を防げたわけではないことなどが記載されている。
10	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(30)	2004年に英国の国立血液サービス・保健省感染症センターの感染症サーベイランスに報告された輸血伝播性感染と疑われた症例は34例であった。そのうちE型肝炎1例のみが輸血を介して伝播した感染症と確定された。ドナーが献血23日後に黄疸を発症し、保管サンプルで、HEV RNA陽性を確認した。赤血球輸血を受けたレシピエント(男、65才)は2ヵ月後にHEV RNAとHEV IgMが陽性であった。解析の結果、ドナーとレシピエントのウイルスは同一であることが示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
11	E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂取の大衆化と関連すると思われる。
12	E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
13	E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。
14	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
15	E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで、献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカなどの生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー、ホルモンの喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、その血液検体からHEV-RNAが5例検出された。
16	E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。
17	HIV	AABB Weekly 2005; 11(42): 9	中国で、HIVと自覚していなかった41歳の男性が、2003年1月から2004年6月にかけて15回売血をし、その血液は患者25例に輸血された。そのうち約18例がHIVに感染し、うち3例が死亡した。
18	HIV	AABB Weekly Report 12(13)	ギリシャでHIV陽性にもかかわらず供血した男性が「未必の故意」で起訴された。この男性の血液や血漿を輸血された患者2名がHIVを発症した。
19	HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
20	HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血漿検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
21	HTLV	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年1月20日	カナダNunavut保健局は、HTLV-1に関連して少なくとも1人の死亡例、ならびに20人未満の感染例を報告した。本報告に対応して、Nunavut保健当局および社会サービスは妊婦および一般集団に対し、検査の提供を10月に開始した。2005年12月7日現在、300人が検査を受けたが、感染者およびHTLV-1関連死亡者の正確な数は公表されていない。カナダ血液サービスは1990年以降、献血血液のHTLV-1スクリーニングを行っているが、年間80万供血あたり平均10~12件が陽性である。
22	インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	米国アイオワ州で2002年から2004年に、ブタに接触する職業のヒトの血清検体を用いて、動物性インフルエンザウイルス感染について調べ、多変量比例オッズモデルを用いて、対照群(79例)と比較した。農夫群(111例)、獣医群(65例)、食肉処理労働者群(97例)の3群とも、ブタH1N1とH1N2ウイルスについて高い陽性率を示し、農夫群が最も高いオッズを示した。H3N2ウイルスについては3群とも対照群と有意差はなかった。ブタへの職業的暴露はブタインフルエンザウイルス感染の危険性を増大させることが明らかとなった。
23	インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第4週: 5-7	日本におけるインフルエンザの定点当たり報告数は全国レベルで32.4(報告数151,878)となり、増加が続いている。分離報告の99.7%がA型であり、その多くがAH3型である。インフルエンザの流行は西日本から東日本に広がりつつあり、引き続き注意が必要である。
24	ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
25	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	2005年1月1日から12月1日に、米国42州の596郡からヒトにおける西ナイルウイルス感染2744例が報告された。うち1165例がWNV神経侵襲病(WNND)、1434例が西ナイル熱、145例が非特定であった。89例が死亡例であった。WNNDはサウスダコタなど中部で発生率が高い。トリでの死亡例は5204例、ウマでの感染例は1072例などが報告されている。
26	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示して、WNV-RNAは陰性であった。
27	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
28	ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
29	ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
30	ウエストナイルウイルス	感染症雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までプエルトリコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
31	トリインフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることが科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
32	トリインフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 12(6) 2006年6月	2004年1月から、タイでは22名のヒトがトリインフルエンザAウイルス(H5N1)に感染し、内14名が死亡した。2005年11月28日に発症し、12月7日に死亡した患者(5歳少年)の死亡当日の血液検体から生きたH5N1ウイルスが確認された。ヒトの血清または血漿中に生きたインフルエンザウイルスが観察されることは稀であるが、最近ではベトナムでも報告されており、患者の血液検体を取り扱う際にはウイルスの拡大を防ぐための厳重な注意が必要である。
33	トリインフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。
34	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2005年第51週、52週 合併号: 15-16	WHO/CSR 2006年1月5日の報告。トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
35	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第2週: 17-18	Nature 2006; 439: 248-249の報告。トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。トルコの株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ヒトに感染しやすくなっている。
36	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第3週: 13	2006年2月2日にWHOが発表した、2003年から2006年までのアジアにおけるヒトでのH5N1亜型トリインフルエンザの国別確定症例数および死亡例数を掲載している。感染地域が徐々に拡大している。WHOは現在のパンデミック警戒レベルをフェーズ3としている。
37	トリインフルエンザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性であった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブタ-ブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。
38	トリインフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
39	トリインフルエンザ	Nature 2006; 439: 248-249	トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。ヘムアグルチニン受容体蛋白の223位アミノ酸の置換、ポリメラーゼ蛋白の627位アミノ酸置換およびヘムアグルチニン蛋白153位アミノ酸変異である。前者はトリインフルエンザウイルスと宿主細胞表面受容体との結合に、ポリメラーゼ変異は複製に影響を与える。トルコ株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ウイルスをヒトに馴化させていると考えられる。
40	トリインフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリューゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
41	トリインフルエンザ	ProMed20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8、12月に1の地区の家禽で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
42	トリインフルエンザ	ProMed20060217-0090	2003年にアジアでトリインフルエンザが広がり始めて以来、25家族の感染が報告されている。兄弟、親子などの血縁が関係する場合は圧倒的多数で、夫婦とも陽性だったのは3家族に過ぎない。同じように感染した鳥に暴露しても発病率に差があることから、遺伝的に感受性の高いヒトがいる可能性がある。しかし、感受性を遺伝子に結論付けるには時期尚早である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
43	トリインフルエンザ	ProMED20060225-0030	韓国保健省当局は、2003年末から2004年前半に、数人のヒトでのトリインフルエンザ感染があったことを確認した、と2006年2月24日に公表した。2003年12月から2004年3月までに、韓国の養鶏場400カ所近くでトリインフルエンザ感染が発生したが、これまでヒトでの感染の報告はなかった。血液検査により、数人の韓国人にトリインフルエンザに対する抗体が産生されていたことが示された。彼らは養鶏業者だが、韓国で家禽類でのトリインフルエンザ流行の際に、有意な症状を示さなかった。
44	トリインフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
45	トリインフルエンザ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 89-96	2005年9月から2006年1月の間に、中国、インドネシア、イラク、タイ、トルコ、ベトナムでの家禽における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイクに関連して、ヒトでのインフルエンザA(H5N1)症例61例が発生した。2003年12月以来、計173例が7カ国で確定されている。WHOインフルエンザ流行準備レベルはPhase 3である。
46	トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
47	トリインフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
48	トリインフルエンザ	WHO 2006年5月18日、5月23日、5月31日、6月6日	インドネシアでH5N1トリインフルエンザに感染したヒト7例中6例が死亡した。感染経路として家禽からヒトへの感染だけでなく、ヒトからヒトへの感染の可能性が指摘されたが、現時点ではヒトからヒトへ効率よく感染することはないと考えられる。
49	トリインフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
50	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑い症例2例がHunan省において調査されている。
51	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月5日	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト症例2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
52	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
53	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月2日	1月17日に重症の呼吸器疾患で死亡したイラク北部の15歳の少女が、イラクで初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染ヒト症例であることが確定した。更に2検体が確定診断のため英国の研究所に送られている。イラクでは家禽でのアウトブレイクは確認されていない。
54	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月21日	アゼルバイジャンから英国の研究所に送られた11症例の検体中7症例がH5N1トリインフルエンザ陽性であった。5例は死亡例であった。陽性例中6例は南東部のSalyan Rayonにある小さな部落に住んでいた。Salyanでの調査で、死んだ白鳥の羽を採る作業が若い女性によって行われていることが明らかとなり、感染症例の大部分が15から20歳の女性であることから、関連を調査中である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
55	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リューゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
56	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuans省の8才の女児で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家禽の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
57	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月3日	エジプト保健省によりH5N1トリインフルエンザ感染であると以前報告された4症例について、全例がH5N1陽性であったことが英国の研究所で確定された。2例は死亡し、他の2例は回復した。エジプトは、2003年12月にベトナムで始まった現在のアウトブレイクで、ヒトでの確定症例を報告する9番目の国である。
58	トリインフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型コロナウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
59	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
60	トリインフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
61	トリインフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業員の健康調査を行った。
62	トリインフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
63	トリインフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは開裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
64	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。
65	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードパン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
66	BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。
67	BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE:(米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時:2004年11月、および確定された日時:2005年6月)今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイク開始日2006年2月27日):ウシにおいて疑似例50例、症例1例、処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。
68	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食肉用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
69	BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで生まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
70	BSE	ProMED20060217-0521	クロアチアでBSEを疑われるウシ(5歳)が発見された。確定されれば、同国で初めての狂牛病例であり、世界で23番目のBSE感染国となる。
71	BSE	ProMED20060307-0020	スウェーデンで狂牛病第1例(12才乳牛)が発見された。妊娠後期に起立不能症になり、治療に反応しなかったため殺処分された。迅速診断の結果、BSE陽性であり、次いでスウェーデン国立獣医学研究所でウェスタンブロット法と免疫組織化学染色を行ったところ、いずれも陽性であった。確認のために検体を英国に送ったが、結果はやはり陽性であった。
72	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
73	BSE	ProMED20060417-0040	カナダ食品検査局(CFIA)によると、プリティッシュコロンビア州で飼育されていたウシ1頭で、BSEが診断確定された。今回の症例確認はカナダ産牛肉の安全性に影響しない。
74	BSE	ProMED20060426-0060	2006年4月24日、エストニア農業省は、屠殺場での定期検査(簡易迅速検査)により、死亡した11才令の乳牛のBSE感染を確認したと発表した。もし診断が確定されれば、今回の症例は同国で初のBSE症例となる。農業省広報部は、問題のウシはエストニア南東部にあるJogevamaa郡の牧場で飼育されていたと発表した。
75	BSE	ProMED20060428-0070	世界各国のBSE症例最新状況、2006年4月24日。世界各国で2001年~2005年に確定診断されたBSE症例数(OIE2006年4月24日更新統計)。2005年の1年間では大部分のBSE感染国で発生率は低下した。チェコ共和国、日本、ポーランドでは若干症例数が増加した。
76	BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
77	BSE	ProMED20060430-0070	カナダでBSE感染ウシと一緒に飼育されていた15頭のウシが米国に輸出された。米国DOAはこのうち1頭の所在を確認した。他の14頭の所在は確認中である。
78	BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
79	BSE	ProMED-mail 20060601.1525	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
80	BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [2]	ヨーロッパおよび米国の科学者らは、BSEの新株である可能性があるウシにおける新たなTSEの発生を追跡している。家畜におけるプリオン病に関する国際会議において、フランスおよびイタリアの科学者らは5~15歳の少数のウシにおいてどのようにこの疾患が検出されたかを述べた。この新株は潜伏期間や検査においてBSEと異なる特徴を示し、当初、感染が疑われる死亡動物の調査中ではなく、生存動物を対象にした積極的調査によって発見された。
81	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
82	BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日、16日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された6歳の牝牛である。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。
83	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
84	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(17): 6	英国のCJD患者7例は1970年から2003年の間にヒト硬膜移植により感染していた。J Neurol Neurosurg Psychiatによると、英国CJDサーベイランスシステムはCJD症例全てを把握する計画である。英国ではヒトでのCJD感染リスクは未知であるが、1973年から2003年の間に同治療を受けた患者におけるCJD感染リスクは、オーストラリアでは500例中1例、日本では1000例から2000例中1例と概算されている。
85	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2006; 168: 151-157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と、1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンブロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も脳内に広く存在することが初めて明らかになった。
86	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
87	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
88	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであった。
89	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
90	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 16(6) 2006年2月9日 SCIEH Spotlight 2006 年2月9日 HPS Weekly Report 40(6) 2006年2月14日 Public Agency of Canada 2006年2月10 日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。患者は現在生存中である。
91	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
92	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
93	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 251-254	脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrP ^{Sc} 濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。
94	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年~2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45~177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、フタ硬膜片レシープエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
95	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
96	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
97	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322- 331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。